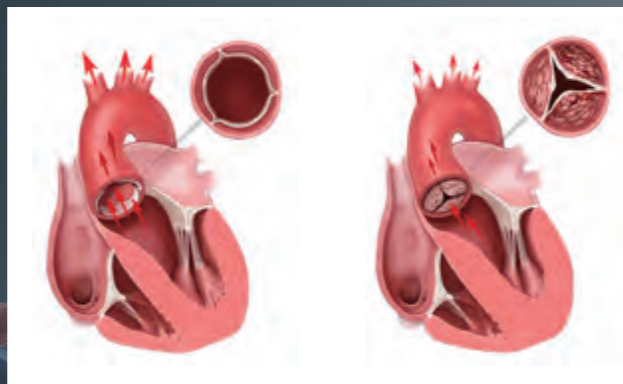


大動脈弁狭窄症とは？

大動脈弁狭窄症とは、左心室と大動脈の間にある大動脈弁が開きにくくなることで、心臓から全身への血液の流れが妨げられる疾患です。

大動脈弁狭窄症が高度になると、狭心症（胸痛）、失神、心不全症状（息切れ、呼吸困難、疲れやすさ、全身のむくみなど）が出現します。

これらの症状が出現した場合、予後は極めて不良とされ、症状が出現した患者様の約半数は 2 年以内に命を落とすとされており、突然死の危険性もあります。



正常な大動脈弁

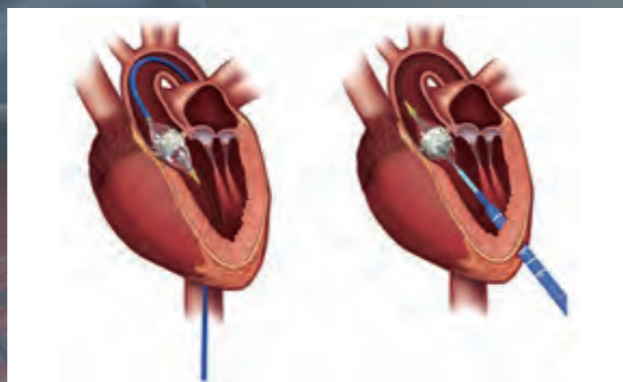
大動脈弁狭窄症

TAVI とは？

これまで重症大動脈弁狭窄症に対する治療法は、胸を切開（開胸）し、人工心肺を用いて心臓を停止させ、狭窄した大動脈弁を人工弁に置き換える外科的大動脈弁置換術しかありませんでした。

しかし、高齢や併存疾患のため手術の危険性が高く手術を受けることができない患者様が約 40% いるとされており。

このような患者様に対して、開胸せずに、心臓を停止することなしに、カテーテルを用いて人工弁を留置する方法として、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）が開発されました。



経大腿動脈アプローチ

経心尖部アプローチ

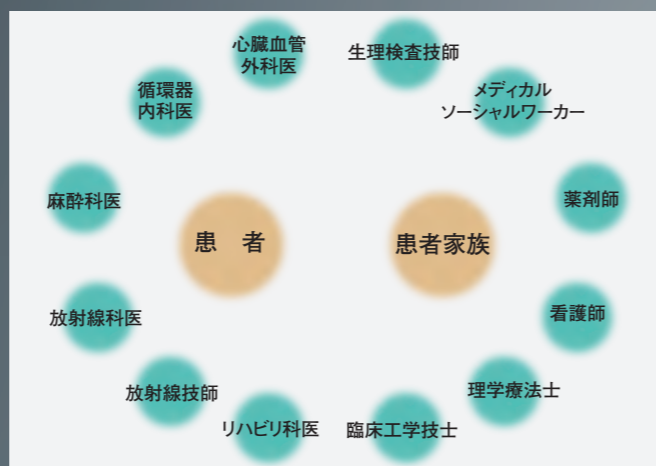
TAVI の適応 外科的手術が困難な患者様が適応となります

ご高齢の方
胸部の放射線治療の既往のある方
肺気腫など呼吸器疾患を合併している方
悪性疾患合併のある方

過去に開胸手術の既往がある方
頸動脈狭窄を合併している方
肝硬変など肝疾患を合併している方
活動性の低い方

ハートチームによるサポート

診療科の垣根を越えて、医師やスタッフ同士が話し合い、それぞれの患者様に合った最適な治療法を選択します。



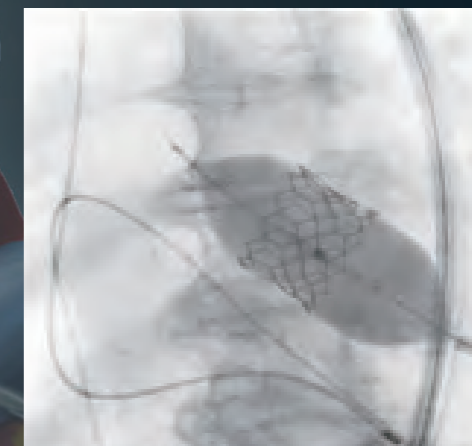
札幌東徳洲会病院の TAVI 治療の特色

① 総合病院の強みをいかした、各科との連携

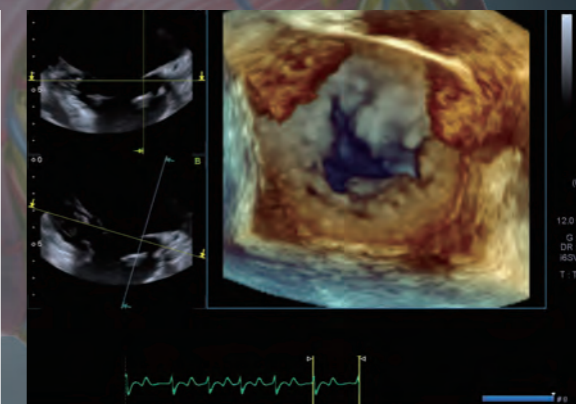
当院は 25 診療科を有し、TAVI を担当する科のみならず、院内の多くの診療科のバックアップを受け、患者さんに最善の医療を提供いたします。

② 最新機器を備え、ゆったりとした空間を演出

何よりも患者様を第一に考えたハイブリッド手術室



③ 最新の 3D 心臓エコーにより、熟練した医師による術前・術中の心臓構造の空間的把握が、みごとに可能に



④ 道内最高スペックの 256 スライス CT で、TAVI 治療に必須の弁評価はもちろん冠動脈、大動脈、下肢血管の立体的描出

